昭和館館報

平成２２年度

口　絵
ごあいさつ…… 1
フロア構成…… 2
年間主要行事…… 3
平成２２年度事業概要
Ⅰ　展示事業
1　常設展示…… 4
(1)　常設展示の概要 …… 4
(2)　展示資料の入れ替え …… 4
2　巡回特別企画展の開催…… 4
(1)　第１７回巡回特別企画展
「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」‥ 5
(2)　第１８回巡回特別企画展
「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」‥ 5
3　貸出キット…… 6
4　実物資料の収集と保存…… 7
(1)　実物資料の収集 …… 7
(2)　実物資料の保存と補修 …… 7
Ⅱ　図書映像資料等閲覧事業…… 8
1　図書文献関係…… 8
(1)　運用管理 …… 8
①　閲覧室及び書庫の管理 …… 8
②　レファレンス・サービス
(参考調査業務) …… 8
③　利用ガイドの発行と
資料目録の作成 …… 8
④　展示関連図書の公開と
参考図書リストの配布
読書案内…… 9
⑤　ホームページ …… 9
⑥　蔵書点検 …… 9
⑦　利用状況 …… 10
(2) データ管理 …… 11
①　収蔵図書のデータ管理 …… 11
②　目次データ入力 …… 11
(3)　保存管理 …… 12
(4)　業務研修 …… 12
2　映像・音響関係…… 12
3　ニュースシアター…… 12
4　収蔵資料…… 13
(1)　図書資料の収蔵状況 …… 13
(2)　映像・音響資料の収蔵状況 …… 14
Ⅲ　関連情報提供事業
1　運用管理…… 15
(1)　システム運用管理 …… 15
(2)　データベース運用管理 …… 16
(3)　ホームページ運用管理 …… 16
2　オーラルヒストリーの制作…… 17
3　海外資料調査の実施…… 17
Ⅳ　啓発広報等事業
1　広報活動…… 18
(1)　広報資料の作成及び発送 …… 18
(2)　広報資料の掲示及び掲載 …… 18
(3)　子ども霞ヶ関見学デー …… 18
(4)　第９回昭和館見学作文コンクール18
(5)　第３回昭和館高校生ポスター
コンクール …… 19
2　『昭和のくらし研究』の刊行 …… 19
3　展示資料の貸出…… 20
4　昭和館運営専門委員会の開催…… 21
5　インターンシップ…… 21
6　小･中学生用展示案内ＤＶＤ、
ビデオの配布…… 22
Ⅴ　特別企画展等の開催及び概要
1「銃後の人々と、その戦後～出征遺家
族の資料を中心として～」…… 23
2「ポスターに見る戦中･戦後」…… 24
3「昭和の日」記念イベントの開催…… 26
4　石川光陽写真展…… 26
5　紙芝居定期上演会…… 27
6　資料公開コーナー…… 27
Ⅵ　東日本大震災の発生と対応状況
1　東日本大震災の発生…… 28
2　昭和館入場者の安全誘導…… 28
3　設置物等の被害状況…… 28
4　帰宅困難者のための施設開放…… 29
5　節電対策…… 29
6　東日本大震災後の開館状況…… 29
参　考
1　平成２２年度利用者実績…… 30
2　平成２２年度常設展示室入場者数‥ 30
3　来館団体御芳名…… 31
4　第９回昭和館見学作文コンクール
厚生労働大臣賞受賞作品‥ 32
5　第３回昭和館高校生ポスター
コンクール入賞作品…… 33
6　施設概要…… 34
7　平成２２年度寄贈者御芳名…… 36

口　絵

外観写真

７階　常設展示室「戦中の学童・学徒」

６階　常設展示室「体験ひろば」

5階　映像･音響室

4階　図書室

１階　昭和館懐かしのニュースシアター

紙芝居定期上演会
（平成２２年６月２７日～毎月第４日曜日）

終戦６５周年記念　特別企画展
「銃後の人々と、その戦後～出征遺家族の資料を中心として～」
（平成２２年７月３１日～８月２９日）

特別企画展
「ポスターに見る戦中・戦後～」
（平成２３年３月１９日～５月１５日）

巡回特別企画展「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」（三重展）
（平成２２年１０月１６日～１０月２４日　三重県総合文化センター）

巡回特別企画展「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」（山形展）
（平成２２年１０月３０日～１１月７日　文翔館）

ご あ い さ つ

はじめに、平成２３年３月１１日に発生しました東日本大震災で犠牲になられた方々の御冥福を衷心よりお祈りするとともに、被害を受けられ復興に取り組んでおられる方々に心から御見舞い申し上げます。

昭和館においても、東日本大震災により設置物等に被害を受けました。このため、復元工事の期間、常設展示室を休室せざるを得ない状況となり、また、節電協力のためエレベーター１基の使用停止や照明等の節減に努めました。

さて、昭和館は、戦没者遺族の援護施策の一環として、国民が経験した戦中・戦後（昭和１０年頃から昭和３０年頃まで）の生活に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示して、国民生活上の労苦を後世代の人々に伝える国立の施設です。平成１１年に設立以降、入館者総数も３００万人を超えるに至りました。これも、ひとえに関係各位の御支援・御協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。ここに、平成２２年度の活動状況を取りまとめましたので御高覧いただければ幸いです。

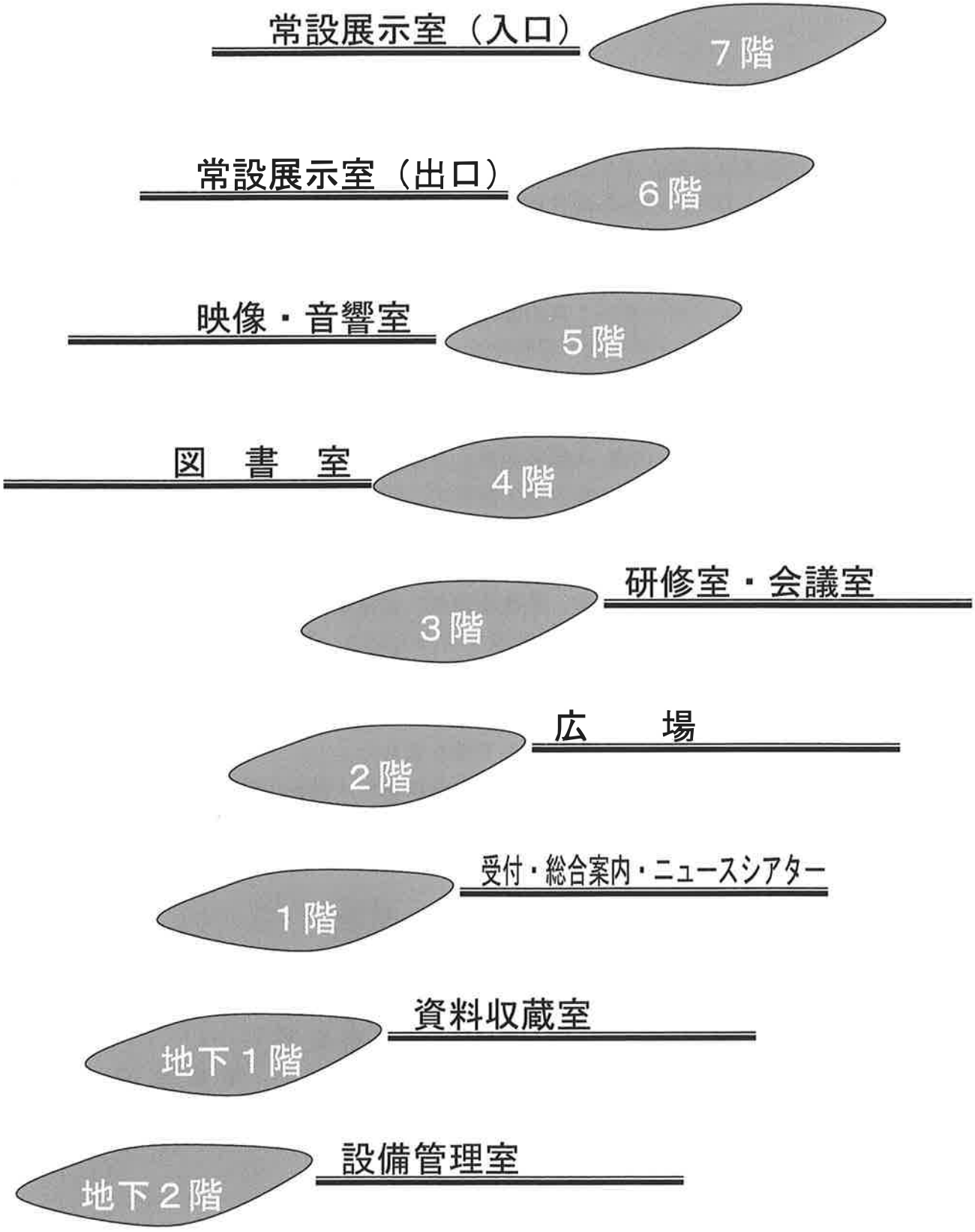
主な事業として、常設展示室、映像音響室、図書室、昭和館懐かしのニュースシアターにより、必要な情報提供等を行ったほか、夏と春の特別企画展、地方での巡回特別企画展、共催による写真展、小・中学生作文コンクール、高校生ポスターコンクール、紀要「昭和のくらし研究」発刊、オーラルヒストリー（体験証言）制作などに取り組んで参りました。

終わりに、今後とも後世代、特に若い世代に戦中・戦後の労苦を継承していくため、各種資料の収集充実に努め、様々な観点からの企画展の開催と種々な情報提供等が出来るよう、魅力ある運営に励んで参りますので、一層の御支援、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成２３年１０月

昭 和 館
館 長　花 輪 隆 昭

フロア構成


常設展示室（入口）
7階
常設展示室（出口）
6階
映像・音響室
5階
図　書　室
4階
研修室・会議室
3階
広　　場
2階
受付・総合案内・ニュースシアター
1階
資料収蔵室
地下1階
設備管理室
地下2階

年間主要行事

平成２２年 ３月１３日～　５月　９日	特別企画展を開催 「館蔵名品展～版画に描かれたくらしと風景～」
４月２４日～　４月３０日 ５月　３日～　５月　５日	「昭和の日」記念イベントを開催
６月２４日	平成２２年度第１回昭和館運営専門委員会を開催
６月２７日～	紙芝居定期上演会(毎月第４日曜日に開催)
６月２８日～　６月３０日	常設展示室の資料交換工事（休室）
７月３１日～　８月２９日	終戦６５周年記念　特別企画展を開催 「銃後の人々と、その戦後 ～出征遺家族の資料を中心として～」
１０月１６日～１０月２４日	巡回特別企画展を開催（三重県にて） 「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」
１０月３０日～１１月　７日	巡回特別企画展を開催（山形県にて） 「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」
（平成２３年） １２月　７日～　７月１８日	石川光陽写真展を開催 「警視庁カメラマンが撮った昭和モダンの情景」 （旧新橋停車場鉄道歴史展示室にて）
平成２３年 １月２９日～　１月３１日	常設展示室の資料交換を実施（休室）
２月１５日	平成２２年度第２回昭和館運営専門委員会を開催
２月２８日～　３月　６日	映像・音響室の資料整理を実施（休室）
２月２８日～　３月１８日	図書室の資料整理を実施（休室）
３月　１日	紀要『昭和のくらし研究』（第９号）を刊行
３月１１日	東日本大震災の発生
３月１２日～　３月１８日	東日本大震災による館内整理のため、臨時休館
３月１９日～　４月２１日	常設展示室の復元工事を実施（休室）
３月１９日～　５月１５日	特別企画展を開催　「ポスターに見る戦中・戦後」

平成２２年度事業概要

Ⅰ　展示事業

展示事業では、戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える実物資料の常設展示を行うとともに、関連する資料の収集、保存、管理を行っている。

また、特別企画展及び巡回特別企画展等を開催した。

（特別企画展等の内容は別項Ⅴに掲載）

１　常設展示

（１）常設展示の概要

昭和館７階及び６階の常設展示室においては、戦没者遺族をはじめとする多くの国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えるための展示を行っている。

７階では、戦争が激しくなる少し前の昭和１０年(1935)頃から、昭和２０年(1945)８月１５日までの戦中の暮らしを、６階では終戦から、『経済白書』に「もはや戦後ではない」と記された昭和３０年(1955)頃までの戦後の暮らしを、それぞれ多くの実物資料とともに写真・映像資料、図解資料等を併せて展示し紹介している。

なお、平成２２年度の常設展示室への入場者数は、59,028 人であった。

（Ｐ３０参照）

（２）展示資料の入れ替え

長期展示による資料の劣化を避け、また、できるだけ多くの方々からの寄贈資料を紹介するため例年２回、１月と６月に展示資料の入れ替えを行っている。

平成２２年度は、６月２８日（月）から３０日（水）までの３日間と、１月２９日（土）から３１日（月）までの３日間、常設展示室を休室して資料交換と清掃作業を行った。

２　巡回特別企画展の開催

昭和館では、遠方の道府県に在住する方々の便宜を考慮し、さらに幅広い広報活動の一環として、各地で年２回の巡回特別企画展を開催している。

平成２２年度の巡回特別企画展は、次頁の通り実施した。

（１）第１７回巡回特別企画展「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」（三重展）

開催期間：平成２２年１０月１６日（土）～１０月２４日（日）
会　　場：三重県総合文化センター　第２ギャラリー
協　　賛：三重県遺族会
後　　援：三重県　三重県教育委員会　津市　津市教育委員会
中日新聞社　伊勢新聞社　夕刊三重新聞社　朝日新聞社
読売新聞社　毎日新聞社津支局　産経新聞社津支局
日本経済新聞社津支局　ＮＨＫ津放送局　中部日本放送
東海テレビ放送　三重テレビ放送　ＺＴＶ　東海ラジオ放送
三重エフエム放送株式会社
内　　容：三重県関連の資料を中心に、戦中・戦後の厳しい時代を生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真などを通し、当時の世相や苦難の多かった暮らしを紹介した。
来場者数：５，１１３人（約６３９人／１日）

（２）第１８回巡回特別企画展「語り伝えたい戦中・戦後の暮らし」（山形展）

開催期間：平成２２年１０月３０日（土）～１１月７日（日）
会　　場：文翔館（山形県郷土館）
共　　催：山形県生涯学習文化財団
協　　賛：日本遺族会第１ブロック（山形県遺族会　北海道連合遺族会
青森県遺族連合会　岩手県遺族連合会　秋田県遺族連合会
宮城県連合遺族会　福島県遺族会）
後　　援：山形県　山形県教育委員会　山形市　山形市教育委員会
山形新聞　山形放送　朝日新聞山形総局　読売新聞山形支局
毎日新聞山形支局　日本経済新聞社山形支局
産経新聞社山形支局　ＮＨＫ山形放送局　山形テレビ
テレビユー山形　さくらんぼテレビ　ケーブルテレビ山形
エフエム山形
内　　容：山形県関連の資料を中心に、戦中・戦後の厳しい時代を生き抜いた人々が綴った手記や、その姿を記録した写真などを通し、当時の世相や苦難の多かった暮らしを紹介した。
来場者数：４，７３４人（約５９２人／１日）

３　貸出キット

昭和館では現在、一般用２組、子ども用２組、解説グラフィックのみ４組、証言映像の貸出キットを用意して貸与の依頼に対応している。

平成２２年度は、遠方の小・中学校、高等学校等に約 24,500 枚のチラシを送付するなどの広報により、更なる利用を呼びかけた。

なお、本年度の貸出状況は、以下の通りである。

＜貸　出　先＞

（学校）４４カ所

鉾田市立当間小学校／鋸南町立保田小学校／下関市立角倉小学校／
姫路市立高浜小学校／六ヶ所村立倉内小学校／奈良市立右京小学校／
王寺町立王寺北小学校／千代田区立番町小学校／日光市立中宮祠小学校／
日進市立南小学校／大仙市北神小学校／名古屋市立鳴子小学校／
廿日市市立阿品台西小学校／荒尾市立八幡小学校／
宇都宮市立上河内東小学校／足立区立千寿小学校／
千葉市立こてはし台小学校／成田市立成田小学校／赤磐市立石相小学校／
函館市立旭岡小学校／船橋市立高根東小学校／
八王子市立由井第二小学校／杉並区立杉並第七小学校／
島田市立金谷小学校／東郷町立高嶺小学校／八尾市立西山本小学校／
室戸市立室戸岬小学校／和泉市立南池田小学校／座間市立旭小学校／
増毛町立別苅小学校／横浜市立相沢小学校／南幌町立南幌小学校／
江東区立東雲小学校／小樽市立幸小学校／札幌市立信濃中学校／
箱根町立箱根中学校／妙高市立妙高高原中学校／熊野市立入鹿中学校／
小松島市立小松島中学校／新温泉町立夢が丘中学校／
江戸川区立小松川第一中学校／栃木県立石橋高等学校／
東京学館新潟高等学校

（地方自治体）１３カ所

新宿区（区立北新宿図書館）／東京都北区（総務部総務課）／
八王子市（総務部総務課）／世羅町（教育委員会　生涯学習課）／
桶川市／橿原市／川口市（総務部総務課）／
三朝町（町立みささ図書館）／飯豊町（町民総合センター）／
姫路市（市立福井総合センター）／菰野町（健康福祉課）／
相馬市（市総合福祉センター）／さいたま市（浦和大学総合福祉学部）

（一般団体）１１カ所

情報産業労働組合連合会（東京都）／大沢住民協議会（東京都）／
愛川町遺族会（神奈川県）／コープかながわ座間エリア会（神奈川県）／
財団法人石川県遺族連合会／

介護老人保健施設 すみよし（埼玉県）／ 新潟県妙高市遺族会戦没者遺児の会／ 介護老人保健施設　なごみ苑（富山県）／桜彩会（埼玉県）／ ふるさとの英霊展実行委員会（茨城県）／ 平和をねがう中央区民の戦争展（東京都）

4　実物資料の収集と保存

（1）実物資料の収集

平成２２年度における実物資料の収集は、主に個人からの寄贈によるもの約 1,700 点、購入によるもの約８００点であった。

実物資料の収蔵概数は次表の通りである。（平成２３年３月末現在）

寄　贈　資　料	２８，８００点
購　入　資　料	９，０００点
厚生労働省からの無償貸付資料	３，２００点
合　計	４１，０００点

（2）実物資料の保存と補修

平成２２年度末までに収集した実物資料は、全て燻蒸処理を行い、整理、分類した上、地下１階の資料収蔵室で保管を行った。

なお、破損・汚損の激しい紙製資料等約３０点に対して補修を行った。

三　重　展

山　形　展

巡回特別企画展

Ⅱ　図書映像資料等閲覧事業

1　図書文献関係

（1）運用管理

①　閲覧室及び書庫の管理

４階図書室では、収集した戦中・戦後の国民生活に関する文献や戦争に関する基本図書等を閲覧に供している。

閲覧室には座席３０席のほか、所蔵資料や『戦史叢書』等のデータベース及び『文藝春秋』等のデジタル情報を見ることができる端末を入口付近に４台、研究コーナーに２台設置し、タッチパネルとキーボードの両方で使えるようにしている。またＣＤ－ＲＯＭ検索用端末２台に加え、国内の類似施設情報が見られる端末を１台設置し、来館者の利用に供している。

蔵書の中でも利用頻度が高い基本資料や総合的な内容をもつ資料を中心に開架図書とし、利用状況に応じて随時調整している。

閉架図書は４階書庫と地下書庫の２か所に分かれており、比較的利用頻度の高い資料を４階書庫に収蔵している。劣化の激しい図書資料は保管庫で別置保存している。

また、閲覧室入口付近の展示ケースには寄贈資料の一部を随時展示し紹介している。

②　レファレンス・サービス（参考調査業務）

平成２２年度のレファレンス・サービスは1,036件、１日平均４件で、特に４月から１０月の年度前半が多かった。

書籍の所蔵確認だけではなく、内容に関するレファレンスが多くを占め、調査に時間を要するレファレンスが多かった。特に今年度は、平成２３年４月から放映開始のテレビドラマに関して、戦時中の国民学校についての問い合わせが多数あった。また、学校の教員からの学習内容についての質問も目立った。

レファレンスの内容は随時蓄積して、利用ガイドなどに反映させるよう努めている。

③　利用ガイドの発行と資料目録の作成

レファレンスの内容に基づいて蔵書の紹介をしたり、利用・検索の方法を紹介する『ぶらりらいぶらりぃ』を毎月発行し希望者に配布している。平成２３年３月末までに１３２号を発行した。

利用者から要望があった財団法人史料調査会からの寄託洋図書、洋雑誌の蔵書目録を作成し、閲覧に供した。

④　展示関連図書の公開と参考図書リストの配布、読書案内

来館者が特別企画展などの展示内容についてより一層理解が深められるよう、展示内容に即した図書・雑誌を閲覧室内に展示し、気軽に手にして閲覧できるコーナーを設けている。

平成２２年度は特別企画展「ポスターに見る戦中・戦後」及び資料公開コーナーでの展示内容に関連した図書・雑誌の公開を行った。

また、７月２１日（水）から９月１０日（金）まで、小学校高学年から中学生を対象に、「夏休み宿題・研究資料リスト」を作成して希望者に配布するとともに、ホームページにも同リストを掲載し、利用の便を図った。

今年度より、「図書館員が読んだ本」、「書評から」と題した図書の紹介を定期的に開始した。図書室職員が読んで興味深いと思われた本などを簡単なコメントをつけて紹介したり、新聞などの書評欄に掲載された図書を記事とともに紹介している。

⑤　ホームページ

図書室では、図書データを毎月更新するほか、図書・雑誌資料の一部を紹介した「ちょこっと所蔵資料」や「ぶらりらいぶらりぃ」を定期的に更新した。「本に関するお問い合せ」では、利用者からのレファレンス等を随時受けつけ、資料募集のお知らせを掲載して広く資料の寄贈を呼びかけた。

蔵書の検索は、図書・雑誌のタイトル、著者名や出版年を検索項目としており、対象及び条件を選択することにより絞り込んだ検索が可能となっている。キッズナビでは、児童にわかりやすく図書室の利用について紹介している。

⑥　蔵書点検

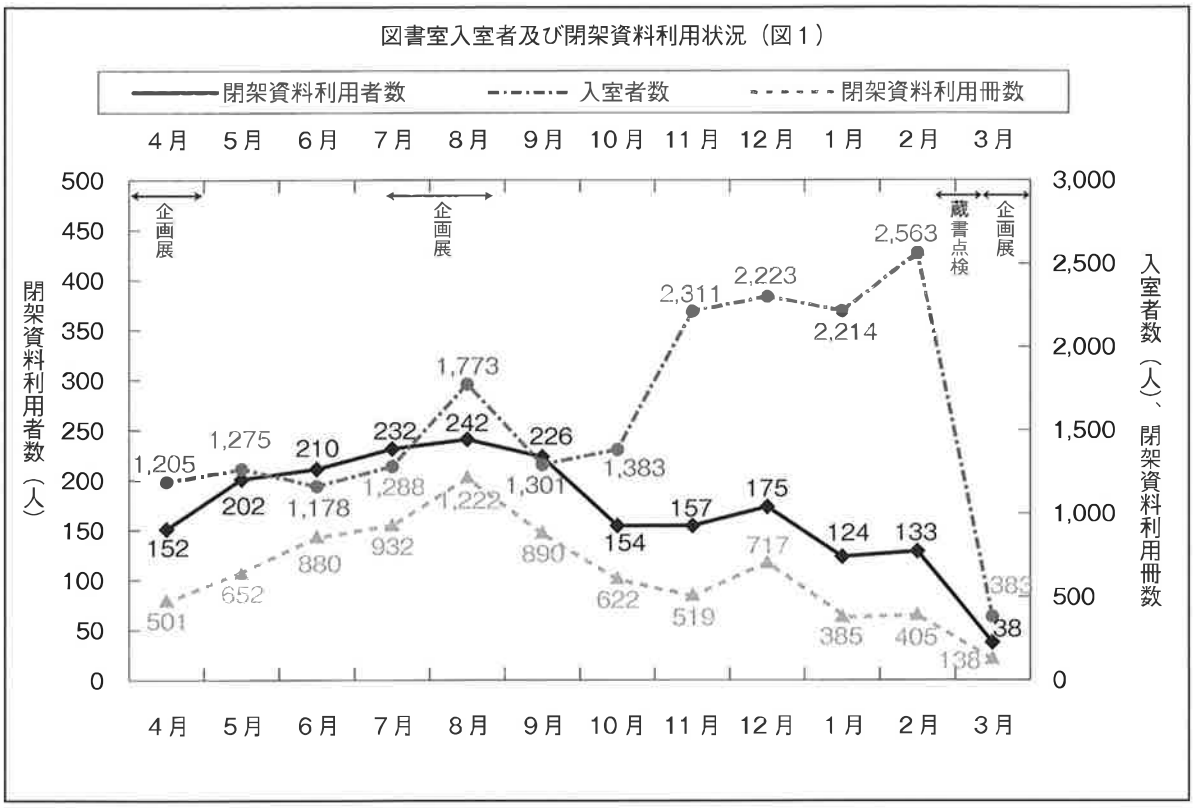
平成２３年２月２８日（月）から３月１８日（金）までの１９日間、図書室を休室し、蔵書点検を実施した。（本年度は３月１１日に発生した東日本大震災のため、４日間期間を延長した）

開架図書及び閉架雑誌を重点的に点検し、破損が著しい資料の修理や製本を行った。資料の増加に伴い、書庫内の配置場所を変更するなど蔵書の移動をした。

⑦　利用状況

平成２２年度の図書室入室者及び閉架利用状況(月ごとの変遷)は図１、閉架資料分野別貸出状況は図２のとおりであった。

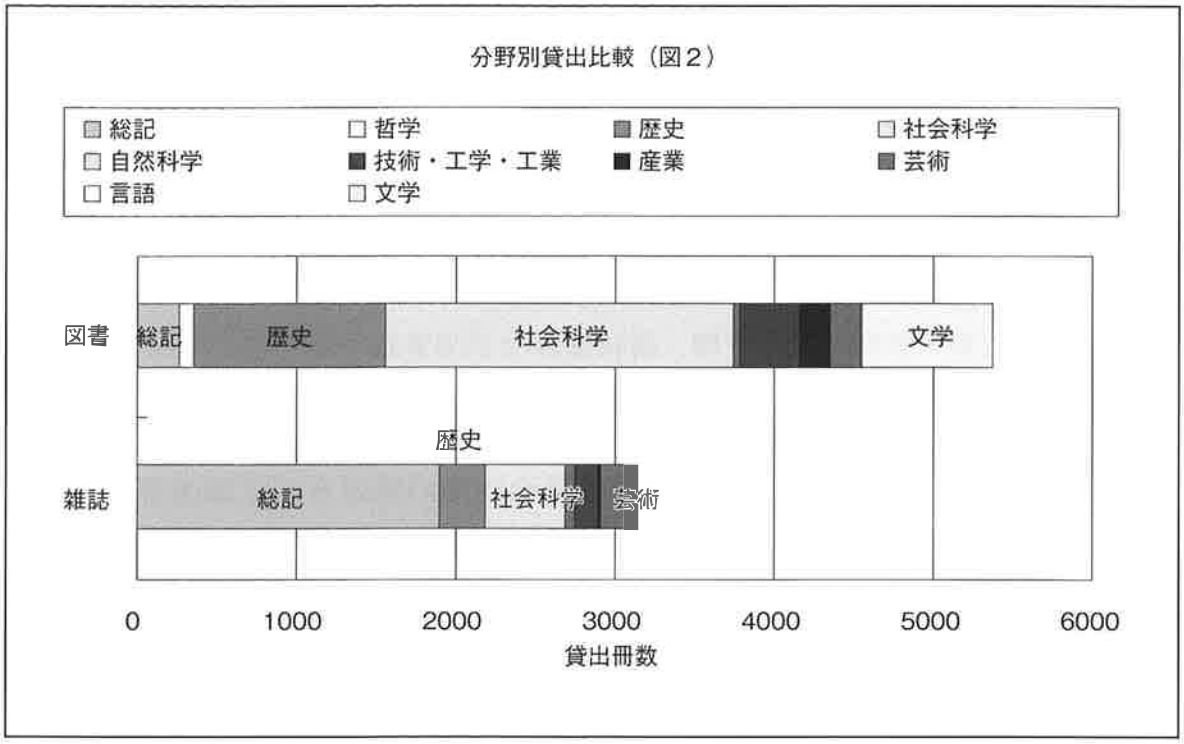
全体的には調査研究を目的とした利用者が増え、一人当たりの利用時間が長い傾向が続いている。



・図書室入室者数の１日平均は６５名前後であった。

・月別では、１２月、２月（小中学生の利用者が多い）の入室者が、８月（夏期の特別企画展開催中、終戦記念日も迎える）の入室者を上回っている。３月の利用者が例年に比べて減っているが、これは東日本大震災により３月中旬まで休室となったこと、開館後も時間を午後４時までに短縮としたことによる。

・閉架資料の利用者数、利用冊数は、夏休み期間である８月が最も多く、次いで７月となっている。



※雑誌における「総記」は、週刊誌及び娯楽誌など一般誌のことをいう。

・図書では社会科学、歴史の分野の利用が多く、次いで文学となっている。
・なお、社会科学分野の内訳としては、戦争関連の基本的資料、軍事・部隊史関係に加え、戦前から戦後の教科書類の利用が多かった。
・雑誌は例年どおり「総記」の利用が目立ち、少年少女、女性向け雑誌の利用が圧倒的に多かった。

（２）データ管理

①　収蔵図書のデータ管理

収蔵図書の書誌・所蔵データは随時点検、追加入力および修正作業を進めている。平成２２年度は 1,942 冊の書誌データの入力と装備を行った。

②　目次データ入力

図書検索システムでは、図書の書誌・所蔵データの他に目次データも入力し、目次を含めた情報を検索対象として「ことば」検索に役立たせている。平成２２年度は 2,014 件の目次データ入力を行った。

（３）保存管理

資料の劣化に加え、閲覧による破損やコピー利用による破損も増えつつあり、資料を補修しつつ利用の拡大を図っていくことが今後の課題である。平成２２年度は７０冊の製本と１７４冊の破損本を修理した。劣化が激しく合本できない雑誌については中性紙保存箱での保存を試みている。

（４）業務研修

資料収集・整理・保存管理、情報提供など図書館を取り巻く問題は、常に変化している。図書館業界や類似施設についての状況を把握し、今後の図書室の運営に反映させていくことを目的に職員業務研修に参加した。平成２２年度は、９月に日本図書館協会主催の第９６回全国図書館大会（奈良県）に出席して、業務の向上と情報交換に努め、１１月には日本図書館協会、情報保存研究会共催の第４回資料保存シンポジウム「デジタルアーカイブの最前線－現状と未来」に参加して、書籍のデジタル化についての見聞を深めた。

２　映像・音響関係

５階映像・音響室では、戦中・戦後の国民生活に関する映像・音響資料等を検索端末を通じて来館者に提供している。検索端末１５台を設置し、うち２台は、多人数で同時に利用が可能な団体専用ブース、1台は当館類似施設の各ウェブサイトを紹介する専用端末となっている。

上記の運用のほかに、パソコン操作が得意でない来館者も利用できることを目的に、「国民生活」「トピックス・著名人の顔」「スポーツ」「世間を騒がせた出来事」のニュース映画を簡単に閲覧できる検索コーナーやＳＰレコードの一部を試聴できるコーナーを設け、その順調な運用に努めている。

なお、平成２２年度の映像・音響室の利用者数は、28,388人であった。

（Ｐ３０参照）

３　ニュースシアター

戦前から戦後のニュース映画を毎週４作品ずつ選定して毎日上映する「昭和館懐かしのニュースシアター」は、多くの来館者から好評を得ている。

平成２２年度は２１１作品を上映した。今年は終戦６５周年であることから、「終戦６５周年特別企画」として①４月２４日（土）から３０日（金）に「昭和の日」特別上映、②８月１４日（土）から２０日（金）には「終戦記念日」特別上映を開催した。いずれも「ニュース映画にみる昭和２０年」と題して、昭和２０年に封切られた戦中・戦後の「日本ニュース」をそれぞれ公開した。

また、「終戦記念日」特別上映では、松島トモ子さんのオーラルヒストリー「シベリアに父をたずねて」を併せて上映した。

なお、平成２２年度のニュースシアターの利用者数は、105,242 人であった。

（Ｐ３０参照）

４　収蔵資料

（１）図書資料の収蔵状況

平成２２年度は、昨年度来重点をおいて収集している昭和時代の写真集や少年少女雑誌・児童向け図書のほかに、終戦６５周年にあたって夏季に昭和時代関係の出版が相次いだため、これらを重点的に収集した。収蔵概数は次表の通りである。（平成２３年３月末現在）

国民生活関係図書	４５,４４５冊
戦争に関する基本的図書	１６,２００冊
独自資料	３５,９８０冊
その他基本図書	９,７４５冊
計	１０７,３７０冊

※平成２２年度の主な受入資料の内訳

○　国民生活関係　　１，２７２冊

・当時刊行された雑誌類や生活体験記等

『指導少国民の力行』『国民学校　ヨイコドモの躾』『戦時家庭経済読本』『少年少女譚海』『新女苑』等

○　戦争に関する基本的図書　　４０９冊

・太平洋戦争関連の基本文献、欧米等外国の公刊戦史、部隊史、戦争関連の体験記等

『歩兵第二二二連隊史』『全国戦災史実調査報告書』『飛行機取扱法』『帝国海軍　提督達の遺稿』等

○　その他　　４９７冊

・寄贈を受けた各類似施設の刊行物等

『国立歴史民俗博物館研究報告』『東京都江戸東京博物館紀要』等

・定期購読誌

『現代用語の基礎知識』『中央公論』『サライ』『暮らしの手帖』等

・辞典・目録等の参考図書

『日本統計年鑑』『図書館年鑑』等

（２）映像・音響資料の収蔵状況

利用者が検索システムを利用して閲覧できる映像・音響資料の収集を進めている。収蔵数は次表の通りである。（平成２３年３月末現在）

○　動画資料（ムービー） ・米国資料館から入手　1,021 作品 ・米国個人から入手　33 作品 ・豪州国資料館から入手　20 作品 ・英国から入手　5 作品 ・国内で入手　2,073 作品 合計　3,152 作品	○　終戦後、進駐軍撮影の戦後日本人の記録 ○　戦中・戦後の記録映画 ○　戦中・戦後のニュース映画等 ○　戦中・戦後の映画作品	終戦直後の映像の中には、カラー映像が含まれており、貴重な記録となっている。情報検索システムで閲覧可能。
○　静止画資料（写真） ・米国資料館から入手　5,734 枚 ・米国個人から入手　2,253 枚 ・豪州国資料館から入手　100 枚 ・英国から入手　233 枚 ・国内で入手　35,933 枚 ・図書に移管のため除籍　－296 枚 合計　43,957 枚	○　終戦後、進駐軍撮影の戦後日本人の記録及び日本側撮影の報道写真等 ○　土門挙氏他の著名な写真家の作品 ○　昭和初期から戦後まで、多数の写真を撮影した石川光陽氏の写真等	これらの写真も一部デジタル化し、情報検索システムで閲覧可能。
○　音響資料（ＳＰレコード） ・国内で入手　6,391 枚 ・寄託資料　35,000 枚 合計　41,391 枚	○　流行歌・演説・落語・浪曲といったあらゆる分野のレコード	情報検索システムで一部が鑑賞可能。順次登録作業中。

※平成２２年度の主な受入資料の内訳

○　資料の購入	
・記録映像	
米国国立公文書館記録映像	１作品
日本ニュース	３９作品
○　資料の寄贈	
・記録写真	２，７６２枚
・記録フィルム	２９作品
・音響資料（ＳＰレコード）	８１枚

Ⅲ　関連情報提供事業

関連情報提供事業では、①昭和館が所蔵する図書資料、映像・音響資料、実物資料の情報、②雑誌資料等をデータベース化した情報、③昭和館類似施設（国内１３２カ所）の基本情報を、それぞれ来館者が端末で利用できるよう提供している。

特に図書資料については千代田区内の関連施設・大学図書館とデータベースの提携を行っており横断検索が可能である。

また、外部からのアクセス用として開館以来ホームページを開設しており、主に昭和館の事業内容、特別企画展の開催案内、各種事業の紹介などの情報提供を行っているほか、資料のレファレンス等も受けている。

なお、ホームページでは子供向け用として「キッズナビ」を平成１８年度末に追加して開設し、好評を得ている。

１　運用管理

（１）システム運用管理

来館者に静止画（写真）、動画、音響、ＣＤ（図書・雑誌）資料及び類似施設等の関連情報を提供している。様々な条件から来館者が資料を検索し、閲覧できる方法を採用している。

システム稼働は極めて安定しており、ハードウェア及びデータ損傷等の大きなトラブルは皆無であった。

平成２２年度の各データベースへのアクセスカウントをまとめたのが次表である。アクセス件数は月平均約 25,700 件で、多く利用されている。

	CD 資料	写 真	映 像	音 響	図 書	雑 誌	月別合計
平成２２年４月	493	20,280	4,893	3,457	2,194	860	32,177
５月	554	14,552	3,727	3,556	2,710	1,333	26,432
６月	579	15,394	3,799	3,629	2,785	1,823	28,009
７月	361	12,823	4,065	3,280	2,541	2,317	25,462
８月	678	16,572	6,226	3,662	3,192	1,811	32,141
９月	325	9,990	4,071	3,850	2,629	1,522	22,387
１０月	393	11,764	3,287	3,132	2,348	2,373	23,297
１１月	876	8,983	3,641	3,356	3,483	1,948	22,287
１２月	637	12,705	3,316	2,597	2,957	1,674	23,886
平成２３年１月	984	21,497	4,503	2,155	3,722	1,662	34,523
２月	840	12,257	4,004	4,096	2,770	1,516	25,483
３月	175	8,665	1,421	1,155	802	185	12,403
合　　計	6,895	165,482	46,953	37,925	32,133	19,024	308,487

（２）データベース運用管理

来館者閲覧用及び記録資料のデジタル化を進め、以下のデータベースを稼働させている。

○　収蔵図書・雑誌目次情報

収蔵図書や雑誌の書名・著者名・雑誌名等のほか、目次を全てテキスト入力しており、「目次情報」からも検索ができるようになっている。

○　収蔵映像・音響資料情報

収蔵している静止画（写真）、動画及び音響資料（ＳＰレコード）を、タイトルや作曲者名等の資料情報から検索でき、目的の映像または音楽を表示し、また視聴できるようにしている。

平成２２年度は新たに映画のスチール写真、都電志村線の写真、イギリスゲティ社蔵の写真（チリングワース氏撮影）、東京の風景を描いた絵葉書を閲覧できるようにし、ニュース映画では「中日ニュース」の公開準備を行った。

○　図書ＣＤ・雑誌ＣＤ情報

昭和館で独自に開発したデータベースで、雑誌は『中央公論』『文藝春秋』『婦人公論』『写真週報』『時事年鑑』『放送ニュース解説』『改造』がデータベース化され（『改造』は継続中）、必要なページが表示されるようになっている。

○　戦史叢書・陸海軍部隊略歴検索システム

防衛庁防衛研究所戦史室編纂の『戦史叢書』、厚生省援護局編纂の「部隊略歴簿」「艦船行動調書」等をデータベース化し、横断検索を可能にして、利用の便を高めている。

（３）ホームページ運用管理

開館時から引き続き、昭和館ホームページの定期更新を行っている。

なお、平成２２年度のアクセス数は次のとおりであった。

○「昭和館ホームページ」へのアクセスカウント

平成２２年度	１４２，１６２件
平成２２年度月間平均	１１，８４７件
開館時からの累計	１，７２５，６７９件

○「キッズナビ」へのアクセスカウント

平成２２年度	１９，５１０件
平成２２年度月間平均	１，６２６件
平成１８年（導入時）からの累計	９４，６４９件

２　オーラルヒストリーの制作

戦中から戦後にかけての労苦を体験された方々の証言を、永く後世に伝えるため、「オーラルヒストリー」の制作を昨年に引き続き実施した。

平成２２年度は、「戦没者への遺族の想い」を中心に、引き揚げ者・復員者の体験など、９名の証言（９作品）の収録を行った。

「動員学徒の青春」	重原正三さん	（東京都在住）
「命を救ったチフス」	根津重明さん	（東京都在住）
「母の一言“生きて帰るんだよ！”」	児玉利彦さん	（東京都在住）
「生死を分けた配置替え」	山田晴弘さん	（東京都在住）
「父からの手紙」	久保田千鶴子さん	（愛媛県在住）
「父の面影をたどって」	高橋和子さん	（愛媛県在住）
「父の戦後、私の出征」	中山譽雄さん	（愛媛県在住）
「夫の出征を見送って」	嶋瀬千鶴枝さん	（山口県在住）
「兄を偲んで」	鬼村幸江さん	（山口県在住）

３　海外資料調査の実施

平成２２年度には米国における調査を実施した。

ワシントンＤ．Ｃ．では、国立公文書館において戦中から戦後にかけてのポスター資料などの調査、米海兵隊が終戦後日本国内を撮影したカラーフィルムなどの調査を実施した。また、昨年に引き続き退役日系二世軍人会と交流を持ち、資料の提供や今後の当館への協力を依頼した。

ロスアンゼルスでは、メイド・イン・オキュパイド・ジャパンと呼ばれる戦後占領期に日本が製造した製品の調査、全米日系人博物館との会合を行い、資料収集の協力を呼びかけた。

Ⅳ　啓発広報等事業

1　広報活動

（１）広報資料の作成及び発送

平成２２年度は、都道府県、政令指定都市、中核市、東京特別区、全国の市町村役場、教育委員会、小・中学校、高等学校、都道府県遺族会、都道府県老人クラブ、観光旅行業者、類似施設等に対し、ポスター、チラシ及びパンフレット等を発送し、昭和館の事業内容の周知を図った。

また、昭和館の活動を、学校等に随時伝えるため、広報誌「昭和館だより」を、５月、１２月に１都２２県の小・中学校及び１都１道２２県の高等学校等へ発送した。

（２）広報資料の掲示及び掲載

昭和館の事業内容及び特別企画展の案内を行うため、車内窓上ポスター広告を、東京メトロ東西線、同半蔵門線、都営新宿線に掲示した。また、春の特別企画展の時には、ドア横ステッカー広告を、都営新宿線に掲示した。当館の最寄駅である九段下駅においては、駅ホーム（東京メトロ東西線と都営新宿線）に電飾掲示板と４番出口付近にポスターを、春の特別企画展の時には、駅構内に柱巻き広告を掲出した。

新聞広告に関しては、朝日、読売、毎日、東京、産経の各新聞に掲載した他、学校等に対する広報として「日本教育新聞」、「全私学新聞」、「教育家庭新聞」及び「月刊修学旅行」に広告を掲載した。

（３）子ども霞ヶ関見学デー

文部科学省主催で開催している「子ども霞ヶ関見学デー」の厚生労働省会場に社会・援護局の「６５年前の夏を体験してみよう」とのタイトルで、昭和館及びしょうけい館が出張展示を行った。

昭和館では「貸出キット」及び雑誌資料・音響資料等を出展し、２日間の来場者数では、厚生労働省会場の展示の中では、一番多かった。

・開催期間　平成２２年８月１８日（水）～１９日（木）
・会　　場　厚生労働省　仮設会議室「１会議室」
・来場者数　７３８人

（４）第９回昭和館見学作文コンクール

昭和館を見学した小中学生及び巡回特別企画展を見学した小中学生を対象に、「第９回昭和館見学作文コンクール」を実施した。

小学校６年生を中心に合計２６０作品の応募があった。

審査の結果、千葉県佐倉市立上志津小学校６年生の松崎詩織さんの作品が厚生労働大臣賞に（作文は別掲）、埼玉県さいたま市立大谷小学校６年生の倉原恵里夏さんの作品が昭和館館長賞に選ばれた。

（５）第３回昭和館高校生ポスターコンクール

高校生を対象に、昭和館に対する周知と理解を広め、多くの方の来館及びホーム・ページの閲覧を得ることを目的として「第３回昭和館高校生ポスターコンクール」を実施した。全国の高等学校にチラシを発送する等して募集したところ、合計５２作品の応募があった。

審査の結果、埼玉県小松原女子高等学校の根市美花さんの作品が、最優秀賞に（作品は別掲）、優秀賞に９作品（作品は別掲）、佳作に１０作品が選ばれた。

作文コンクール

ポスターコンクール

２　『昭和のくらし研究』の刊行

昭和館の設立趣旨である「戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝える」事業の一環として、紀要『昭和のくらし研究』第９号を平成２３年３月に刊行した。（平成１４年度から年１回刊行）

目次は次表の通りである。

『昭和のくらし研究』第９号　目次

口　絵
日本製プロパガンダ・ポスターに見られるデザイン的傾向に関する考察
—昭和館所蔵作品を中心として—
……姫路市立美術館　田　島　奈都子
ＵＳＳＢＳ（戦略爆撃調査団）と山梨県中巨摩郡旧豊村
—「空襲」なき一養蚕村の戦時—
……國學院大學文学部専任講師　高　村　聰　史
資料紹介　石川光陽筆『大東亜戦争と空襲日記』（３）
……昭和館図書情報部　松　尾　公　就
千人針データベースの作成に向けて
……昭和館学芸部　渡　邉　一　弘

昭和のくらし研究第９号

３　展示資料の貸出

○「和菓子の歴史」（虎屋ギャラリー）
・開催期間　平成２２年７月２３日～９月２０日
・会　　場　虎屋ギャラリー
・貸出資料　静止画１点

○「秩父宮殿下を偲ぶ特別企画展」（秩父宮殿下を偲ぶ特別企画展実行委員会）
・開催期間　平成２３年３月１日～３月３１日
・会　　場　信州まつもと空港２階多目的ホール
・貸出資料　音源３曲

○「被災６６周年東京大空襲資料展」（東京大空襲犠牲者追悼・記念資料展実行委員会）
・開催期間　平成２３年３月８日～３月１１日
・会　　場　台東区立浅草公会堂１階ギャラリー
・貸出資料　絵画８点、複製絵画パネル２点、資料映像１点

上記のほか、テレビ・ラジオ番組、教科書副読本、雑誌など製作のための貸出を行った。

4　昭和館運営専門委員会の開催

昭和館の事業計画の策定、事業の運営等に当たっては、日本遺族会会長の諮問機関である昭和館運営専門委員会を年２回開催し、同委員会の意見を踏まえ、事業の充実推進を図った。

昭和館運営専門委員会　委員名簿

（平成 23 年 3 月 31 日現在。50 音順、敬称略）

委員長	宮　脇　岑　生（元流通経済大学教授）
委　員	赤　木　完　爾（慶應義塾大学教授）
〃	加　藤　厚　子（映画専門大学院大学准教授）
〃	加　納　正　弘（元厚生省大臣官房審議官）
〃	北　原　　進（立正大学名誉教授）
〃	久保田　福　美（全国小学校社会科研究協議会会長）
〃	清　水　　勲（元帝京平成大学教授）
〃	鈴　木　　淳（東京大学准教授）
〃	仁　科　又　亮（元東京工芸大学大学院教授）

5　インターンシップ

飯田橋公共職業安定所（ハローワーク飯田橋）からの依頼により、高校生の職業意識の形成を目的とする「ジュニア・インターンシップ（就業体験）」を実施し、７月２７日（火）～３０日(金)まで、神田女学園高等学校（東京都千代田区）の生徒１名、８月２４日(火)～２７日(金)まで東洋高等学校（東京都千代田区）の生徒２名を受け入れ、職員の指導の下、当館の業務を体験させた。

6　小・中学生用展示案内ＤＶＤ、ビデオの配布

小・中学生等の社会科見学及び修学旅行等の機会を捉え、来館促進を一層図るため、当館の事業内容を分かりやすく説明した展示案内ＤＶＤ、ビデオを見学予定の希望校に配布しており、児童･生徒の皆さんに来館前に予備知識をつけていただいている。

展示案内ＤＶＤ

展示案内ビデオ

Ⅴ　特別企画等の開催及び概要

昭和館では、多岐にわたる「戦中・戦後の国民生活上の労苦」を後世に伝えるため、常設展示とは違った視点や内容で、特別企画展等を開催している。

1　特別企画展　終戦６５周年

「銃後の人々と、その戦後～出征遺家族の資料を中心として～」

出征により家族と離ればなれになった人々は、戦地と銃後に身を置きながらもお互いを思い、祖国の勝利を信じて戦った。そのようななかにあって、不幸にも戦死した兵士の遺家族はもとより、出征した者のいる家族に対しても、国による援護の他、職場や学校、近所づきあいに至るまで様々な助け合いが行われていた。

昭和２０年８月１５日、敗戦により国民の暮らしは一変した。なかでも頼るべき存在を失った戦没者遺族の生活は辛苦を極めた。自分たちの暮らしは自分たちで切り開くしかない厳しい日々が続いたが、人々は新しい時代に向けて一生懸命に生き、それがいち早い戦後の復興へと続いていった。

終戦６５周年を記念して、戦中・戦後を生きた人々の証言とともに、当館が新たに収集した出征遺家族に関連する資料を多数展示した。

開催期間：平成２２年７月３１日（土）～８月２９日（日）

会　　場：昭和館３階　特別企画展会場

展示構成

Ⅰ　出征の風景

Ⅱ　銃後の助け合い
　１　公的な援護政策
　２　様々な助け合い

Ⅲ　それぞれの帰還
　１　戦地とのやりとり
　２　生還した兵士たち
　３　無言の帰還

Ⅳ　戦後混乱期の家族たち
　１　家族の安否
　２　戦後混乱期の暮らし
　３　遺族の労苦

Ⅴ　最期の地への想い

Ⅵ　伝え残したい記憶

来場者数：７，７５８人（約２８７人／１日）

イベント

１　戦中・戦後の体験を語り伝える会
期　　日：平成２２年８月８日（日）　１４：００～１６：００
会　　場：昭和館１階ニュースシアター
参加者数：１０４人

２　展示解説
期　　日：平成２２年８月７日（土）・２１日（土）１４：００～１４：４５
会　　場：昭和館３階特別企画展会場
参加者数：６１人

２　特別企画展「ポスターに見る戦中・戦後」

第１期：公共事業・社会事業を中心として

第２期：商業広告・文化催事を中心として

広告媒体としてのポスターは明治時代末に登場し、欧米の製版・印刷技術やデザインを取り入れながら発展していった。しかし戦中には広告の対象となる多くの商品が統制のために姿を消したことから、それに伴い商業広告も少なくなり、政策や情報伝達の手段として重視された。戦争が終わると、新しい製版・印刷技術を用いたポスターも登場した。

昭和館では戦中・戦後の世相を表す資料として多くのポスターを収集し、これまで常設展示室や特別企画展で紹介してきた。本展では館蔵のポスター１８０点を展示し、昭和初期から戦中・戦後にかけての政策や広告などの内容や、デザインや紙質などの移り変わりを紹介した。

開催期間：第１期　平成２３年３月１９日（土）～４月１７日（日）
　　第２期　平成２３年４月１９日（火）～５月１５日（日）

会　　場：昭和館３階特別企画展会場

展示内容
【第１期】
マスメディア、金融、寄付・供出、運動、行政、記念日・週間、募集、通信・輸送、図解、広告デザイナー・高橋春人

【第２期】
出版、広告・食品飲料、広告・その他、映画、芸能、スポーツ、催事、旅、モデルに見るポスターの変遷

来場者数：１０，１８７人
　　（約２０４人/１日）

イベント
１　ミニ講演会
展示資料に関する専門家、体験者をお招きし、それぞれの専門の立場から展示資料を解説していただいた。
期　　日：平成２３年３月１９日（土）
　　柏木博氏「日本のグラフィック・デザイン――
　　１９３０年代から５０年代のポスターを中心に」
　　４月　９日（土）高畑利雄氏「高橋春人の業績」
　　４月１６日（土）西村寿美雄氏「ポスター印刷技術の変遷」
　　４月２３日（土）山川浩二氏「戦中・戦後の広告史」
　　４月３０日（土）穂積和夫氏「私の手がけたポスター」
各　　回：１４：００～１４：４５
会　　場：１階ニュースシアター
参加者数：１６３人

２　展示解説
期　　日：平成２３年４月２日（土）・５月７日（土）
　　１４：００～１４：４５
会　　場：３階特別企画展会場
参加者数：５６人

３　「昭和の日」記念イベントの開催

昭和の日（４月２９日）を中心として、記念イベントを開催した。

１　「ニュース映画にみる昭和２０年」の特別上映
　開催期間：平成２２年４月２４日（土）～３０日（金）
　会　　場：１階昭和館懐かしのニュースシアター
　来場者数：２，１６７人

２　「常設展示室」の無料入場
　期　　日：昭和の日の４月２９日（木）
　来場者数：４４９人

３　「昭和の遊び」の催し（特別企画展のイベントとして）
　水ヨーヨー釣り、メンコやけん玉、紙芝居の実演など。
　期　　日：平成２２年５月３日（月）～５日（水）
　会　　場：２階広場
　来場者数：２，０２１人

４　石川光陽写真展

「警視庁カメラマンが撮った昭和モダンの情景」

（東京ステーションギャラリーと共催）

開催期間：平成２２年１２月７日（火）～平成２３年７月１８日（月）

会　　場：旧新橋停車場鉄道歴史展示室

展示内容
　昭和館所蔵の 9,600 点あまりの光陽作品の中から、戦前の生き生きした昭和の情景を映し出す写真約 80 点を厳選して、同時代の実物資料とともに展示した。

来場者数：２２，５９９人
　（約１２４人/１日）

5　紙芝居定期上演会

平成２４年度春に開催予定の特別企画展「街頭紙芝居と国策紙芝居」(仮称)に向け、当館が収集した紙芝居を紙芝居師の梅田佳声氏ほかが演じる会を開催した。上演会は平成２２年６月より毎月第４日曜日に昭和館１階ニュースシアターにおいて開催し、その模様は、写真やビデオ、音声データとして記録され、特別企画展の展示資料として活用する予定である。

なお、平成２２年度の紙芝居定期上演会の入場者数は、738 人であった。

6　資料公開コーナー

昭和館が収蔵する映像資料・写真資料（５階）・図書資料（４階）を多くの来館者に利用していただくきっかけになることを目的に、１階ロビーの一角にコーナーを設けて、資料を随時公開している。

平成２２年度に紹介した資料の各テーマと期間は、以下の通りである。

回　数	テ　ー　マ	期　　間
第２２回	堀切正二郎さんが描く 東京大空襲	平成２２年　３月　２日（火） ～　４月１８日（日）
第２３回	村岡信明　淡彩と墨痕で描く 東京大空襲	平成２２年　４月２０日（火） ～　５月３０日（日）
第２４回	昭和２０年刊行の雑誌	平成２２年　６月　１日（火） ～　７月１９日（月）
第２５回	第２回「昭和館高校生ポスターコンクール」入賞作品展示	平成２２年　７月２１日（水） ～　８月２９日（日）
第２６回	平和回復の調印式	平成２２年　８月３１日（火） ～　１０月　３日（日）
第２７回	村岡信明が描いた東京大空襲の惨禍	平成２２年　１０月　５日（火） ～　１１月２１日（日）
第２８回	戦中と戦後を伝えた「新聞」	平成２２年　１１月２３日（火） ～　１２月２６日（日）
第２９回	婦人雑誌の付録－料理編－	平成２３年　１月　５日（水） ～　２月２０日（日）
第３０回	見て聴いて楽しいＳＰレコード	平成２３年　２月２２日（火） ～　４月１０日（日）

注：回数は平成１９年度に公開を始めて以来の通算回数である。

Ⅵ　東日本大震災の発生と対応状況

１　東日本大震災の発生

平成２３年３月１１日（金）１４時４６分大地震が発生し、余震も続いた。

２　昭和館入場者の安全誘導

大地震時、常設展示室（７・６階）及び映像・音響室（５階）で見学されていた入場者は約１０名であった。（図書室は蔵書点検で閉室中）

館内放送により地震発生とエレベータの使用中止をお知らせし、職員が階段使用によって入場者全員を１階ロビーに安全誘導した。地震による入場者及び職員の人的被害は皆無であった。

なお、この日常設展示室には８６名、映像・音響室には６３名の入場者があったが、ほとんどの方が午前中の入場者であり、大地震前に見学を終えられていた。

３　設置物等の被害状況

昭和館の建物は耐震構造であり大きな損傷は無かったが、設置物等に一部被害が生じた。各階の概況は以下のとおりであった。

（１）常設展示室（７階、６階）

・天井の耐火材等の剥落片と粉塵の落下（数カ所）
・格子天井のゆがみと脱落（数カ所）
・各ブースの接続部分（枠）の脱落（数カ所）
・入口のガラスパネル転倒、全破損
・第４ブースの電球ユニット落下、マネキン人形転倒、破損
・第７ブースのだるまストーブ転倒、破損
・各ブース内の台のずれ、展示品のずれ
・事務室　資料保管棚の転倒、書物等散乱

（２）映像・音響室（５階）

・映像室　ロッカー上の物が落下、資料保管棚の位置ずれ、棚板の崩れ、参考図書１５冊落下
・事務室　天井より冷房用の水と細かい物が落下、机上の書類の崩れ

（３）図書室（４階）

・開架書庫、閉架書庫の本の落下

（４）その他

・階段の壁に亀裂（数カ所）

・駐車場第２号機の機器が破損
・屋上ゴンドラ走行車輪の歪み

４　帰宅困難者のための施設開放

３月１１日当日、東日本大震災発生後に首都圏の公共交通が麻痺したため、厚生労働省から帰宅困難者の一時受入施設の一つとなってほしいとの要請があり、昭和館１階ロビーを終夜開放した。

これにより、帰宅困難者１６０名の方が昭和館で一夜を過ごされ、翌日の朝、帰宅された。

５　節電対策

東日本大震災の影響による電力不足により、厚生労働省から節電に協力してほしいとの要請があったので、開館時間の短縮、館内照明の削減、エレベータの１基使用中止など様々な節電対策を講じた。

なお、開館時間は電力事情と類似施設の状況等を参考にして５月２０日から通常開館としたが、その他の節電については引き続き継続した。

６　東日本大震災後の開館状況

３月１１日１４時４６分　東日本大震災が発生
（地震直後）昭和館入場者を１階へ安全誘導した。
その後、３階以上を閉室、１階は開室とした。
（夕方～翌朝）帰宅困難者のため１階ロビーを終夜解放した。

３月１２日～３月１８日　臨時休館
館内整理のため臨時休館とした。

３月１９日～４月２１日　開館（ただし、常設展示室は休室）
常設展示室は復元工事のため休室とした。
開館時間を短縮（１０時～１６時）した。
館内照明など節電対策を講じた。

４月２２日～５月１９日　開館（常設展示室も開室）
復元工事が終わった常設展示室も開室した。
開館時間の短縮を継続した。
館内照明など節電対策を継続した。

５月２０日～　開館（通常開館）
通常開館（１０時～１７時３０分）とした。
館内照明など節電対策を継続した。

参　考

1　平成２２年度利用者実績

（単位：人）

	常設展示室	映像・音響室	図書室	特別企画展	ニュースシアター	合計	備考
平成２２年　４月	3,735	1,600	1,205	16,356	19,309	42,205	3/13～　特別企画展期間
５月	4,057	1,897	1,275	3,846	8,680	19,755	～ 5/ 9　特別企画展期間
６月	3,810	1,796	1,179	74	7,301	14,160	6/27　紙芝居定期上演会
７月	2,953	1,587	1,288	316	7,517	13,661	7/25　紙芝居定期上演会 7/31～　特別企画展期間
8月	5,224	2,558	1,774	7,521	12,782	29,859	～ 8/29　特別企画展期間 8/22　紙芝居定期上演会
９月	2,971	1,527	1,301	69	6,302	12,170	9/26　紙芝居定期上演会
１０月	4,301	1,933	1,383	6,149	7,414	21,180	10/16～10/24　巡回特別企画展期間 10/24　紙芝居定期上演会 10/30～　巡回特別企画展期間
１１月	7,753	3,202	2,126	3,875	9,148	26,104	～11/ 7　巡回特別企画展期間 11/28　紙芝居定期上演会
１２月	8,042	3,933	2,311	3,450	7,541	25,277	12/ 7～　写真展期間 12/26　紙芝居定期上演会
平成２３年　１月	7,249	3,881	2,214	3,448	7,515	24,307	写真展期間 1/23　紙芝居定期上演会
２月	7,524	3,753	2,563	4,368	7,425	25,633	写真展期間 2/27　紙芝居定期上演会
３月	1,409	721	392	3,951	4,308	10,781	写真展期間 3/19～　特別企画展期間
合　計	59,028	28,388	19,011	53,423	105,242	265,092	

2　平成２２年度常設展示室入場者数

総数	区分	種別	人数	割合（%）
５９，０２８人	有料 ５３，８３４人	小・中学生	２８，０５１人	４７．４
		高・大学生	２，６０５人	４．４
		一　般	２３，１７８人	３９．２
	無料 ５，１９４人	小・中学生 （親子割引）	７７２人	１．３
		視察者等	３，１６５人	５．３
		心身障害者	９７６人	１．６
		未就学児	２８１人	０．５

（参考）団体またはグループによる来館学校数

総数	区分	学校数	割合（%）
６３６校	小学校	３６８校	５７．９
	中学校	２０７校	３２．５
	高　校	２５校	３．９
	専門学校	１２校	１．９
	大　学	２４校	３．８

3　来館団体御芳名

（敬称略）

月　日	団　体　名	人　数
4月22日	鳥取市立湖東中学校３年生①	107名
4月22日	鳥取市立湖東中学校３年生②	105名
4月23日	草津市立草津中学校３年生	123名
5月14日	京都市立樫原中学校３年生	204名
6月 2日	共立女子高等学校1年生	137名
6月10日	江戸川区立春江小学校４年生	127名
8月14日	福岡県全国戦没者追悼式参列遺族代表団	101名
8月15日	京都府全国戦没者追悼式参列遺族団	110名
9月 4日	静岡県遺族会	117名
9月16日	三郷市立彦郷小学校	107名
9月26日	戦没者田村市遺族会	121名
10月19日	坂東市遺族会①	136名
10月20日	大磯町立国府小学校６年生	134名
10月20日	坂東市遺族会②	183名
10月28日	大田区立出雲小学校６年生	121名
11月 2日	練馬区立早宮小学校６年生	110名
11月 5日	江戸川区立葛西小学校６年生	134名
11月 9日	三沢市立第一中学校２年生	165名
11月11日	山梨大学附属小学校６年生	106名
11月11日	小山市立間々田小学校６年生	112名
11月16日	横浜市立田奈小学校６年生	156名
11月16日	江戸川区立瑞江小学校６年生	109名
11月16日	町田市立忠生第三小学校６年生	115名
11月16日	松戸市立根木内小学校６年生	163名
11月17日	桐蔭学園小学部６年生	121名
11月18日	江戸川区立東小松川小学校６年生	117名
11月18日	江戸川区立第七葛西小学校６年生	110名
11月19日	長泉町立南小学校６年生	130名
11月19日	越谷市立宮本小学校６年生	107名
11月24日	千葉市立こてはし台小学校６年生	176名
11月25日	小金井市立小金井第一小学校６年生	136名
11月25日	板橋区立桜川小学校６年生	116名
11月25日	三芳町立三芳小学校６年生	119名
11月25日	川崎市立西生田中学校１年生	116名
11月30日	朝霞市立朝霞第六小学校６年生	147名
11月30日	国分寺市立第三小学校６年生	115名
11月30日	町田市立成瀬台小学校６年生	129名
12月 3日	江戸川区立篠崎小学校６年生	105名
12月 3日	さいたま市立指扇小学校６年生	149名
12月 7日	江戸川区立西葛西小学校６年生	119名
12月 7日	松戸市立松飛台小学校６年生	124名
12月 7日	清瀬市立清瀬第六小学校６年生	117名
12月 9日	越谷市立花田小学校６年生	134名
12月 9日	江東区立第五砂町小学校６年生	106名
12月 9日	船橋市立薬円台小学校６年生	138名
12月10日	小田原市立富水小学校６年生	122名

月　日	団　体　名	人　数
12月10日	春日部市立幸松小学校６年生	105名
12月10日	江東区立南陽小学校６年生	106名
12月14日	葛飾区立上小松小学校６年生	117名
12月16日	船橋市立夏見台小学校６年生	139名
12月16日	三鷹市立北野小学校６年生	105名
12月21日	所沢市立明峰小学校６年生	130名
12月22日	墨田区立押上小学校６年生	109名
1月 7日	船橋市立二宮小学校６年生	103名
1月 7日	東村山市立八坂小学校６年生	129名
1月13日	川崎市立下作延小学校６年生	102名
1月13日	川崎市立栗木台小学校６年生	125名
1月14日	松戸市立上本郷小学校６年生	121名
1月14日	袖ヶ浦市立長浦小学校６年生	103名
1月18日	酒々井町立酒々井小学校６年生	101名
1月18日	羽村市立武蔵野小学校６年生	106名
1月19日	市原市立京葉小学校６年生	127名
1月21日	越谷市立城ノ上小学校６年生	116名
1月25日	横浜市立旭小学校６年生	119名
1月25日	江東区立第二砂町小学校６年生	102名
1月26日	狭山市立富士見小学校６年生	142名
1月27日	狛江市立緑野小学校６年生	109名
1月27日	足立区立花保小学校６年生	106名
1月27日	立川市立第五小学校６年生	103名
1月27日	川口市立戸塚西中学校２年生	144名
1月28日	江東区立枝川小学校６年生	118名
1月28日	春日部市立正善小学校６年生	112名
2月 3日	伊奈町立南小学校６年生	101名
2月 4日	佐倉市立根郷小学校６年生	114名
2月 8日	さいたま市立鈴谷小学校６年生	102名
2月 8日	川崎市立久地小学校６年生	124名
2月 8日	川崎市立東生田小学校６年生	108名
2月 9日	新座市立東野小学校６年生	134名
2月10日	市川市立塩焼小学校６年生	105名
2月10日	横浜市立新鶴見小学校６年生	123名
2月10日	江東区立豊洲小学校６年生	110名
2月10日	横浜市立奈良の丘小学校６年生	152名
2月10日	川越市立武蔵野小学校６年生	105名
2月15日	さいたま市立仲町小学校６年生	134名
2月16日	市川市立冨貴島小学校６年生	106名
2月17日	横浜市立都筑小学校６年生	128名
2月18日	飯能市立飯能第一小学校６年生	138名
2月18日	国分寺市立第六小学校６年生	122名
2月18日	目黒星美学園小学校６年生	124名
2月22日	調布市立第一小学校６年生	111名
3月 1日	川崎市立上作延小学校６年生	110名
3月10日	東京学芸大学附属大泉小学校６年生	137名

※紙面の都合により、100名以上で来館した団体のみを掲載しております。

4　第９回昭和館作文コンクール・厚生労働大臣賞受賞作品

「戦争で失った平和」

千葉県佐倉市立上志津小学校　６年　　松﨑　詩織

私は、昭和館に行って、戦中と戦後の暮らしをくわしく調べてきました。

戦争のことについて、調べている途中に、疑問に思ったことがあります。

それは、「日本はどうして戦争をしたのだろう？」「どうして、つらく・苦しく・悲しい戦争を約八年間もしたのだろう？」と思いました。それは、何か理由があるにちがいないと考えました。

戦中は、空襲がさらに激しくなると、各家庭では、縁の下や、庭や道路わきに「防空壕」を掘ったり、「防火用水」などを用意して空襲に備えたりしました。夜は電灯の明かりが窓から外に漏れないように黒いカーテンを引き、電球には大きな「黒い笠」や布を掛けたりしました。毎晩のように空襲があるので、すぐ避難できるように服を着たまま床につきました。

戦争の時は、夜も気をつかったり、死との境目でも必死に生きていたんだなと思いました。

戦後は、平和な時代を迎えました。激しい空襲にあいながらも、生き残った人々は、安心して眠れるようになりました。しかし、配給も途絶え食物がなくなったために、特に体の弱い子どもや老人が、栄養失調で苦しみました。多少体力のある親たちは、必死になって農村地帯へ「買い出し」に出掛けましたが、分けてもらえたのはわずかばかりの芋やカボチャなどでした。

戦後は、食べ物などが少なくて、日本人はとても苦労して、探しに行ったんだなと思いました。

私は、なぜ戦争をしたのかが少しわかったような気がします。日清・日露戦争みたいに勝つと領土や賠償金がもらえると思って、戦争に参加したのかなと思いました。昔の人は、空襲や集団疎開があったり、男の人は兵隊になったりしながらも必死で生きぬこうとしました。しかし、今の時代は家があって、家族もいて、食べる物や、着る服などがあるのは当たり前だけど、昔の人たちから見れば、平和で幸せでぜいたくをしているんだなと思いました。

戦争は、絶対にあってはならないと思いました。一度の空襲で、何十万人もの人が死んだり、家族も家も食べ物もなくなってしまうからです。

私は、昭和館で命の大切さや努力の大切さを改めてふり返りました。

5　第３回昭和館ポスターコンクール入賞作品の紹介　＜入賞作品（優秀賞以上）＞

最優秀賞
小松原女子高等学校
根　市　美　花
「笑顔のあたたかさ」

優　秀　賞
富良野緑峰高等学校
天　笠　奈津美
「昭和の食事」

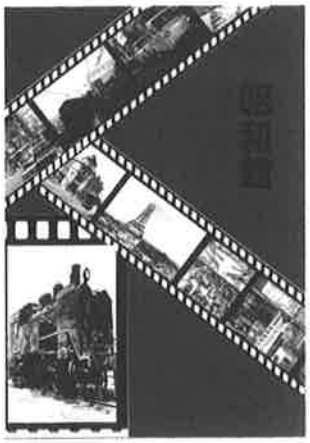
優　秀　賞
宮崎県立佐土原高等学校
泉　　湧　太
「戦争と生活」

優　秀　賞
宮崎県立佐土原高等学校
岩　切　智　早
「昭和の風景」

優　秀　賞
宮崎県立佐土原高等学校
黒　木　真　希
「昭和の暮らし」

優　秀　賞
宮崎県立佐土原高等学校
黒　木　柚　吏
「映し出されている昭和館の風景」

優秀賞
宮崎県立佐土原高等学校
佐　藤　未　遊
「昭和の遊び」



優秀賞
宮崎県立佐土原高等学校
橋　本　大　悟
「昭和の町」

優　秀　賞
宮崎県立佐土原高等学校
宝　徳　美　咲
「かみしばい」

優　秀　賞
宮崎県立佐土原高等学校
澤　田　媛　優
「昭和の思い出」

6　施設概要

設立趣旨

昭和館は、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、戦没者遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦に係る歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供することを目的として設立された。

具体的には、当時の国民生活の姿を伝える実物資料の展示事業、図書・文献及び映像・音響資料の閲覧事業並びに内外の資料館の概要等に関する関連情報提供事業等の諸事業を進めることにより、戦中・戦後の国民生活上の労苦を様々な視点から総合的に伝えていくこととしている。

昭和館建設の経緯

昭和５４年に、財団法人日本遺族会から、戦没者遺児への慰藉のため、「戦没者遺児記念館（仮称）」を建設して欲しいという要望が、当時の橋本厚生大臣に提出された。

これを契機として、戦後に生まれた世代が国民の過半数を占め、今日の繁栄の礎となった戦没者の遺族をはじめとする国民が経験した戦中・戦後の国民生活上の労苦を後世代に伝えることを目的に、戦没者遺族に対する援護施策の一環として、各界有識者の参加のもとに、「戦没者遺児記念館（仮称）」建設の検討が進められた。

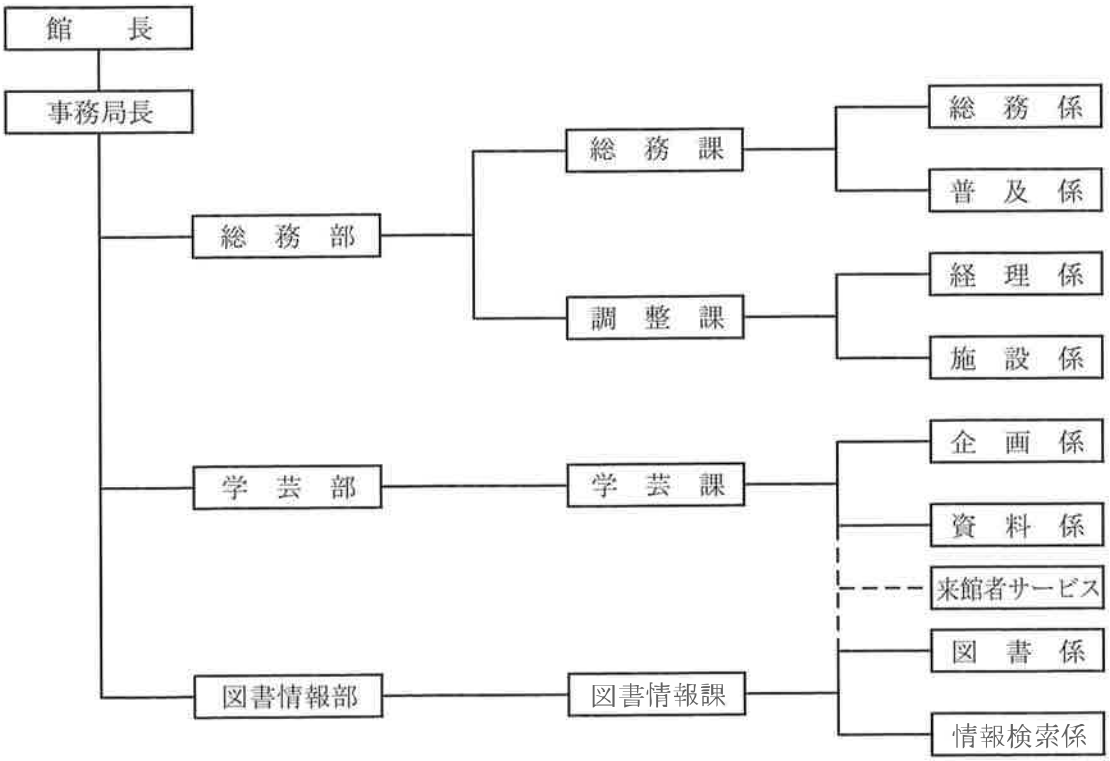
平成５年に、「戦没者追悼平和祈念館（仮称）」として厚生省（当時）予算に建設費が計上された。その後、民間等からさまざまなご意見をいただき、平成１０年１２月末に竣工した。館の名称は、「昭和館」とされ、平成１１年３月末に開館した。

なお、財団法人日本遺族会が厚生労働省から委託を受け、館の運営に当たっている。

施　設

面　　積	敷地面積	2,138㎡			
	延床面積	8,514.11㎡			
構造種別	S造（鉄骨造）一部ＳＲＣ造（鉄骨鉄筋コンクリート造）				
階数	床面積（㎡）	主な用途	収容人員（人）	避難施設	備　　考
R階	206.04	機械室		避難階段	
7階	792.05	常設展示室（入口）	135	避難階段	戦中の国民生活
6階	795.37	常設展示室（出口）	142	避難階段	戦後の国民生活
5階	797.61	映像・音響室	63	避難階段	情報検索
4階	798.03	図書室 書庫	52	避難階段	図書閲覧 図書収蔵庫
3階	799.6	研修室・会議室	120	避難階段	特別企画展時は会場に使用
2階	718.61	広場		避難階	（臨時出入口）
1階	1288.42	資料公開コーナー エントランスロビー ニュースシアター 受付・総合案内・事務室	69 34	避難階	昭和館出入口
B1階	1011.42	資料収蔵庫 防災センター 機械式駐車場		避難階段	実物・図書資料収蔵（低温管理）
B2階	1306.96	機械室 機械式駐車場		避難階段	
合計	8514.11		615		

組　織



7　平成２２年度寄贈者御芳名

本年度に、資料をご寄贈くださいました方のお名前を記して御礼といたします。

実物資料寄贈者

［個人］

（都道府県別、順不同、敬称略）

都道府県	寄贈者名
北海道	望月美加
山形県	鈴木恒男
〃	田中秋廣
東京都	石塚達雄
〃	市川美津子
〃	宇津隆之
〃	梅田義彦
〃	大久保治雄
〃	門屋盛孝
〃	川口實
〃	斉藤里子
〃	齋藤雅俊
〃	塩谷汀子
〃	柴崎静子
〃	島田桃子
〃	下平貴祥
〃	瀬下恵美
〃	高柳はる
〃	田口美枝子
〃	田中渥子
〃	中尾幸枝
〃	中村敬明
〃	中村武彦
〃	西山一美
〃	蓮沼三恵子
〃	藤澤秀夫
〃	星野重治
〃	松本和子
〃	村田英三郎
〃	森士郎
〃	森津幸一
〃	安岡由佳梨
〃	横山明子
〃	吉原司郎
〃	渡辺松江
〃	渡辺良江
〃	和田全弘

都道府県	寄贈者名
神奈川県	浅井恒郎
〃	岡田明子
〃	菊池健一
〃	佐久間精一
〃	鈴木繁人
〃	関口律
〃	関谷淑子
〃	高橋一光
〃	竹中弘直
〃	角井桂子
〃	成田史代
〃	早川ヌイ
〃	早田雅美
〃	林玲子
〃	深津和紀
〃	益田英子
〃	丸山一男
〃	柳生悦子
千葉県	梶山みよ
〃	川田久仁子
〃	河野修
〃	小松清子
〃	林信子
〃	原田欣一
埼玉県	大野芳裕
〃	児安久子
〃	杉山雅英
静岡県	石井裕一
栃木県	野本きみ子
富山県	倉田淳
三重県	若松徳義
京都府	加藤壽美子
広島県	佐々木哲郎
〃	平田桂子
愛媛県	橘元子
福岡県	品川洋子
アメリカ合衆国	レイモンド・ムラカミ

図書資料寄贈者
［団体］

（都道府県別、順不同、敬称略）

都道府県	寄贈者名
北海道	釧路市立博物館
〃	札幌市文化資料室
〃	北海道開拓の村
青森県	青森県近代文学館
〃	青森県立郷土館
〃	むつ市教育委員会生涯学習課
岩手県	遠野市立博物館
〃	盛岡市先人記念館
宮城県	仙台市歴史民俗資料館
〃	東北歴史博物館
秋田県	秋田県立博物館
〃	日本ラジオ歌謡研究会
山形県	鶴岡市立大山小学校　新民館移築記事業実行委員会
〃	米沢市上杉博物館
福島県	いわき市立美術館
〃	福島県立博物館
〃	福島県歴史資料館
茨城県	茨城県立歴史館
〃	予科練平和記念館
栃木県	國學院大學栃木短期大学史学会
〃	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館
〃	栃木県立なす風土記の丘資料館
埼玉県	川越市立博物館
〃	埼玉県平和資料館
〃	日本大学広報部大学史編纂課
〃	武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会
〃	蕨市立歴史民俗資料館
千葉県	鎌ヶ谷市郷土資料館
〃	国立歴史民俗博物館
〃	女性の日記から学ぶ会
〃	野田市郷土博物館
〃	船橋市郷土資料館
〃	ベイタウンシニアクラブ
〃	睦沢町立歴史民俗資料館
東京都	ＮＨＫ放送博物館
〃	ＪＣＩＩフォトサロン
〃	板橋区教育委員会生涯学習課文化財係
〃	板橋区立郷土資料館
〃	出光美術館
〃	大田区立郷土博物館
〃	お札と切手の博物館
〃	お茶の水女子大学文教育学部 人間社会科学科博物館学研究室
〃	海軍兵学校第７５期会事務局
〃	ベネッセコーポレーション
〃	株式会社ＮＨＫグローバルメディアサービス
〃	株式会社岩波書店
〃	株式会社日本文芸社
〃	株式会社文藝春秋
〃	共和開発株式会社

都道府県	寄贈者名
東京都	北区飛鳥山博物館
〃	北区教育委員会生涯学習推進課
〃	近代女性文化史研究会
〃	宮内庁書陵部
〃	国立国会図書館
〃	石川文化事業財団　お茶の水図書館
〃	海原会
〃	偕行社
〃	家具の博物館
〃	古賀政男音楽文化振興財団 古賀政男音楽博物館
〃	史料調査会
〃	水交会
〃	政治経済研究所　東京大空襲・戦災資料センター
〃	多摩市文化振興財団　パルテノン多摩
〃	中国残留孤児援護基金
〃	東京都人権啓発センター
〃	東京都歴史文化財団　東京都江戸東京博物館
〃	日本海事科学振興財団　船の科学館
〃	野球体育博物館
〃	全国学校図書館協議会
〃	日本郷友連盟
〃	日本ユネスコ協会連盟 世界遺産・国際教育グループ
〃	衆議院憲政記念館
〃	しょうけい館
〃	昭和女子大学光葉博物館
〃	如水会
〃	杉並区立郷土博物館
〃	すみだ郷土文化資料館
〃	世田谷区立郷土資料館
〃	全国疎開学童連絡協議会
〃	総務省大臣官房管理室
〃	大正大学　学芸員課程
〃	台東区教育委員会
〃	台東区立下町風俗資料館
〃	たばこと塩の博物館
〃	玉川大学教育博物館
〃	中央区立郷土天文館
〃	中央史学会
〃	千代田区立千代田図書館
〃	千代田区立四番町歴史民俗資料館
〃	筑波大学附属中学校・高等学校創立１２０周年 記念写真集編集委員会
〃	逓信総合博物館
〃	東京家政学院生活文化博物館
〃	東京都公文書館
〃	東京都三多摩公立博物館協議会
〃	東京都写真美術館
〃	東京都美術館

都道府県	寄　贈　者　名
東 京 都	ＪＹＭＡ日本青年遺骨収集団
〃	豊島区立郷土資料館
〃	富山丸遺族会全国連合会
〃	新島村博物館
〃	日本カメラ博物館
〃	日本銀行金融研究所　貨幣博物館
〃	物流博物館
〃	文化環境研究所
〃	文京ふるさと歴史館
〃	平和祈念事業特別基金
〃	防衛省防衛研究所
〃	町田市立自由民権資料館
〃	満鉄会
〃	港区立港郷土資料館
〃	民音音楽博物館（民主音楽協会）
〃	武蔵大学学芸員課程
〃	武蔵野市企画政策室市民協働推進課
〃	明治大学史資料センター
〃	明治大学博物館
〃	靖國神社社務所
〃	吉田秀雄記念事業財団
神奈川県	ＪＩＣＡ海外移住資料館
〃	伊勢原郷土史研究会
〃	大磯町郷土資料館
〃	神奈川近代文学館
〃	神奈川県立歴史博物館
〃	川崎市公文書館
〃	川崎市市民ミュージアム
〃	寒川町教育委員会生涯学習課
〃	馬事文化財団　馬の博物館
〃	平塚市博物館
〃	横須賀市総務部総務課
〃	横浜市史資料室
〃	横浜都市発展記念館
〃	横浜みなと博物館
新 潟 県	新潟市歴史博物館
石 川 県	石川県立歴史博物館
〃	金沢大学歴史言語文化学系
福 井 県	福井県遺族連合会
〃	福井県立歴史博物館
〃	福井県立若狭歴史民俗資料館
長 野 県	飯田市美術博物館
〃	旧制高等学校記念館
〃	松本市立博物館
岐 阜 県	タルイピアセンター
静 岡 県	島田市博物館
〃	沼津市歴史民俗資料館
〃	浜松市博物館
〃	焼津市歴史民俗資料館
〃	日本戦災遺族会
愛 知 県	愛知県陶磁資料館

都道府県	寄　贈　者　名
愛 知 県	安城市歴史博物館
〃	瀬戸蔵ミュージアム
〃	名古屋市博物館
〃	半田市立博物館
三 重 県	四日市市立博物館
滋 賀 県	滋賀県総務部総務課
京 都 府	京都国立博物館
〃	立命館大学国際平和ミュージアム
大 阪 府	往生院民具供養館
〃	大阪歴史博物館
〃	「想い出の学童疎開」の記録を残す会
〃	堺市立平和と人権資料館（フェニックス・ミュージアム）
兵 庫 県	明石市立文化博物館
〃	赤穂市立歴史博物館
〃	温故会
〃	神戸女子大学史学会
〃	西宮市立郷土資料館
奈 良 県	奈良県立民俗博物館
和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘
〃	和歌山市教育委員会
〃	和歌山市立博物館
鳥 取 県	鳥取県立公文書館
〃	鳥取市歴史博物館　やまびこ館
岡 山 県	岡山市デジタルミュージアム
〃	津山郷土博物館
広 島 県	呉市海事歴史科学館
〃	呉市産業部海事歴史科学館学芸課
〃	広島平和文化センター
〃	日本はきもの博物館・日本玩具博物館
〃	広島県立歴史博物館
山 口 県	周南市美術博物館
香 川 県	高松市市民文化センター平和記念室
愛 媛 県	愛媛県歴史文化博物館
〃	坂の上の雲ミュージアム
高 知 県	高知市立自由民権記念館
〃	土佐山内家宝物資料館
福 岡 県	北九州市立自然史・歴史博物館
〃	福岡市総合図書館文学・文書課
〃	福岡市博物館
佐 賀 県	有田町歴史民俗資料館
〃	佐賀県立佐賀城本丸歴史館
長 崎 県	「社史で読む長崎原爆」編集委員会
大 分 県	大分県立先哲史料館
鹿児島県	鹿児島県歴史資料センター　黎明館
〃	尚古集成館
〃	南九州市教育委員会文化財課（ミュージアム知覧）
沖 縄 県	沖縄県平和祈念資料館
〃	海洋博覧会記念公園管理財団
〃	ひめゆり平和祈念資料館

図書資料寄贈者

［個人］

（都道府県別、順不同、敬称略）

都道府県	寄贈者名
北海道	望月美加
山形県	会田浩平
〃	田中秋廣
福島県	齋藤晶彦
〃	諸原孝夫
茨城県	赤城左知子
〃	松永武
栃木県	野本きみ子
埼玉県	石川周子
〃	鯨井邦彦
〃	白井夕美子
〃	杉山亜矢子
〃	野川澄夫
〃	藤野忠
〃	松川素子
〃	大野芳裕
千葉県	河野修
〃	小松清子
〃	戸高一成
〃	福田敏子
〃	宮下延子
東京都	赤木衛
〃	安部裕人
〃	石川令子
〃	梅田義彦
〃	太田畯三
〃	楠山三香男
〃	小泉靖子
〃	古久根昌子
〃	齋藤洋子

都道府県	寄贈者名
東京都	下平貴祥
〃	上丸洋一
〃	鈴木剛
〃	鈴木洋子
〃	中田雅子
〃	西山一美
〃	原豊
〃	福居治夫
〃	福間孝史
〃	藤澤秀夫
〃	星田言
〃	星野重治
〃	細井秀雄
〃	松本和子
〃	森士郎
〃	安岡由佳梨
〃	山口治男
〃	吉池英子
〃	吉原司郎
〃	米谷えりか
〃	渡辺久子
〃	渡辺松江
神奈川県	重原正三
〃	井上弘
〃	小野地英忠
〃	河合泰子
〃	佐久間精一
〃	櫻井光夫
〃	神野正美
〃	高橋一光

都道府県	寄贈者名
神奈川県	竹中弘直
〃	角井桂子
〃	中村光夫
〃	服部よう子
〃	早田雅美
長野県	北野美子
静岡県	松浦千枝雄
愛知県	小出隆司
〃	恒川利雄
〃	間瀬時江
三重県	佐藤孝幸
〃	若松徳義
京都府	牧野邦昭
兵庫県	小林義和
奈良県	西岡妙子
鳥取県	種子明
広島県	平田桂子
山口県	井原貞徳
〃	関令子
徳島県	乃一純子
香川県	糸山東一
〃	横井昭子
愛媛県	橘元子
〃	中山譽雄
福岡県	木付秀雄
〃	品川洋子
熊本県	田中良則
沖縄県	加藤好一
アメリカ合衆国	市川グラント

映像・音響資料寄贈者

［個人］

（都道府県別、順不同、敬称略）

都道府県	寄贈者名
埼玉県	大野芳裕
〃	本多和子
千葉県	犬伏暁生
〃	相木千尋
〃	小松清子
〃	林信子
東京都	石川令子

都道府県	寄贈者名
東京都	大久保治雄
〃	太田畯三
〃	髙橋秀夫
〃	田口美枝子
〃	中尾幸枝
〃	中村武彦
〃	野口正子

都道府県	寄贈者名
東京都	藤澤秀夫
〃	堀正子
〃	森津幸一
〃	吉原司郎
静岡県	石井裕一
京都府	福井豊明
愛媛県	橘元子

昭和館館報 第12号（平成２２年度）

平成２３年１０月発行

編集発行　昭和館

〒102-0074　東京都千代田区九段南1－6－1
電話　０３（３２２２）２５７７